

## 2日 月曜

### ヤコブ

- 1:12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。
- 1:13 だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されているってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することはありません。
- 1:14 人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。
- 1:15 そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。
- 1:16 私の愛する兄弟たち、思い違いをしてはいけません。
- 1:17 すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。
- 1:18 この父が私たちを、いわば被造物の初穂にするために、みこころのままに真理のことばをもって生んでくださいました。
- 1:19 私の愛する兄弟たち、このことをわきまえていなさい。人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありません。
- 1:20 人の怒りは神の義を実現しないのです。
- 1:21 ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。
- 1:22 みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけません。
- 1:23 みことばを聞いても行わない人がいるな



- ら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。
- 1:24 眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れてしまいます。
- 1:25 しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。
- 1:26 自分は宗教心にあついと思っても、自分の舌を制御せず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなしなものです。
- 1:27 父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。

試練があると誘惑に負けやすいものです。これだけ我慢しているのだから、少しくらい許されるだろう。自分は大変なのだから、周囲も許してくれるだろう。…などと思いやすいものです。これらの試練は神様から来るのではなく、人間の欲から来ると言っています。自分が誘惑に負けたことを、神のせいにすることはできません。誘惑に負けずに良い行いをするには、「ただ聞くだけの者」ではなく行うことです。ディボーションも同じです。また「自由の律法」が重要です。自由とは、人に強いられて行うのではなく自発的ということです。主から喜びや感謝をもっといっばいもらって、その応答として喜んで行いましょう。

舌すなわちことばにおいて、困っている人を助けることにおいて、自分をきよく守ることにあって、自発的に良いことをしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

